

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2013

課題番号：22243045

研究課題名(和文) 若年者の教育・職業の移行とキャリア形成に関するコーホート研究

研究課題名(英文) Cohort Survey of school-to-work transition and career formation

研究代表者

乾 彰夫 (Inui, Akio)

首都大学東京・人文科学研究科(研究院)・教授

研究者番号：90168419

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,700,000円、(間接経費) 9,210,000円

研究成果の概要(和文)：20歳～25歳にわたる5年間のパネル調査を通して、若年者の教育機関から就労等への移行をめぐる状況の詳細を明らかにすることができた。現在の非正規雇用等の若年者の中での広がりには各種政府統計でも示されているが、離学後直ちに正規雇用につき継続している者が半数あまりに昇る一方で、離学後20代半ばまではほぼ一貫して不安定就労・無業状態を続ける者が3割近いなど、仕事への移行をめぐる格差が大きいことが明らかにされた。さらに大都市部とそれ以外の地域での格差が思いのほか大きいことなどが判明した。

研究成果の概要(英文)：Based on our five years' longitudinal survey, we identified young people's trajectories of school-to-work transitions. A half of our respondents seems to experience rather smooth transition from school to stable employment. However, three in ten of them have continuously experience uncertain situation such as non-regular employment or unemployed since their leaving education. There are also many differences in youth transition between metropolitan areas and other areas.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：生涯学習 社会教育 教育政策 青年期 移行過程

1. 研究開始当初の背景

本研究は、これに先立つ「大都市部における若年者の教育・職業の移行とキャリア形成に関するコーホート調査」(基盤研究A、2007-2009年度、研究代表者・乾彰夫、課題番号19203034)及び「沖縄における若年者の移行過程に関するコーホート調査」(基盤研究B、研究代表者・上間陽子、課題番号19330175)において実施してきたパネル調査「若者の教育とキャリア形成に関する調査(Youth Cohort Study of Japan)」を引き継ぎ、その4 - 5年目調査並びに補足的なインタビュー調査を実施するものであった。YCSJは、若者の学校から仕事への移行が不安定化・長期化する中で、卒業時など従来の一時的統計調査では把握しきれない移行過程実態を把握するためのパネル調査として設計・開始された。1990年代以降先進各国では、若者の移行をめぐる状況変化が生じる中で、同様の調査が実施されてきたが、YCSJもそうした海外の先行調査の経験を踏まえて設計させたものであった。設計時には4年間の調査を予定していたが、3年目までの時点で回収率が当初予測を大幅に上回ったため、パネル調査を5年間に延長するとともに、6年目に対象者の一部へのインタビュー調査を行うこととした。

2. 研究の目的

我が国の若者の10代末から20代半ばに至るまでの就学・就業及び家族関係等をめぐる状況変化の過程を明らかにすることを目標に、前述の研究を引き継ぎ、YCSJ第三回調査回答者を対象に2回のパネル調査を行うとともに、さらに質問紙では明らかに仕切れない詳細を詳らかにすべくその一部、とくに不安定就労を続けるなど移行上の困難に直面していると思われるケースに焦点を当てたインタビュー調査を実施すること、さらにそこで得られた結果を国際的視野のもとに検討することが本研究の目的であった。

3. 研究の方法

(1) パネル調査

対象者の抽出：住民基本台帳に基づき、2007年4月1日現在満20歳の男女を層化二段階無作為抽出により選んだ。

調査方法：第1回目においては上記の方法で抽出した対象者に依頼状および質問紙を送付したのち、調査員が訪問して調査協力を依頼し、記入済み質問紙を回収した。第2回目以降は前回回答者に対して質問紙を郵送し、調査員による訪問回収を行った。但し紹介抽出地点からの住所異動があった対象者については郵送回収で行った。なお各回とも期限内に回答のなかった対象者には、再度質問紙を送付し、郵送回収を求めた。(以上は前述先行研究で実施)

第4回調査時には当該回対象者全員に5回目までの調査延長について了解を求め、了解の得られた者を対象に第5回目を実施した。

(2) インタビュー調査

対象者の抽出：第5回目調査票末尾にインタビュー調査についての可否、その際に過去の調査票を参照することの可否を訪ね、ともに可とした者のうちから、居住地域を加味した上で、非正規雇用や失業・無業期間が長いなどを中心に抽出した。

調査方法：抽出した対象者に郵送・電話等でコンタクトをとり、了解を得られた者についてあらかじめ用意した場所で研究者が1時間程度のインタビューを行った。ただし対象者の居住地域などの事情から適当な場所が確保できなかった場合は、最寄りの喫茶店や屋外で実施したものもある。

(3) 若者の移行変容に関する国際的検討

最終年度にイギリス・スイス・韓国の研究者を招き、本調査の結果を踏まえた国際シンポジウムを開催した。

4. 研究成果

(1) パネル調査

第1回調査時においては1500名の回答者を確保することを目標に実施し、1687名からの回答を得た(有効回答率33.8%)。第5回調査回答者は891名で、第1回回答者に対する割合は52.8%であった。この回答率は他の類似社会調査に比して遜色のないものとなっており、各種統計等と比べて大きな偏りも認められない(詳しくは中村高康『『若者の教育とキャリア形成に関する調査』の概要』『若者の教育とキャリア形成に関する調査 最終年度報告書』)。

(2) インタビュー調査

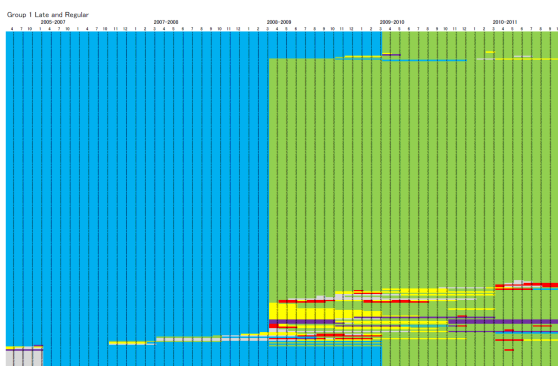
2012年9月～12月に上記の方法により実施した。50ケースを目標として49ケースについて完了した。

(3) 主な結果の特徴

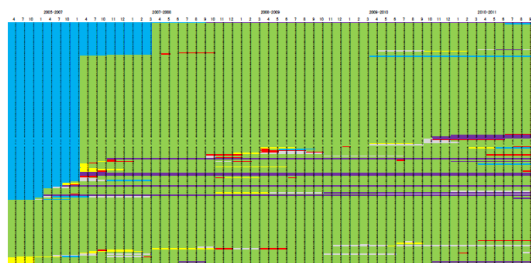
移行類型

18歳4月から最終調査時までの7年間の毎月の状況をもとにしたデータをもとに学校から仕事等への移行パターンを類型化すると、就学終了後直ちに正規雇用につきそれを継続している安定的な移行グループが依然として半数あまり存在する一方で、離学後一貫して非正規雇用・失業・無業等の不安定状態を続けている者がおよそ3割存在するなど、移行状況をめぐる二極化が生じていることが浮かび上がった。

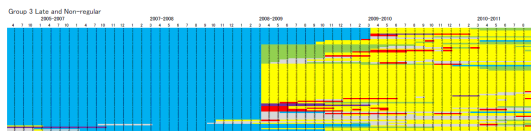
[後期離学・正規雇用優勢類型]



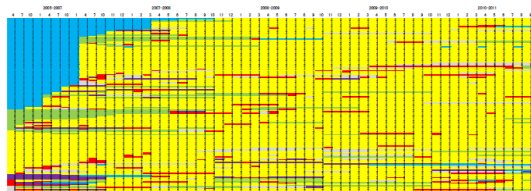
[早期離学・正規雇用優勢類型]



[後期離学・非正規雇用優勢類型]



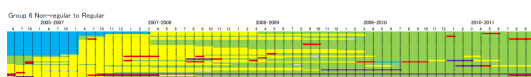
[早期離学・非正規雇用優勢類型]



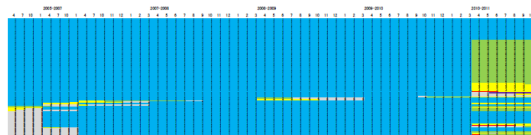
[早期離学正規優勢 非正規優勢類型]



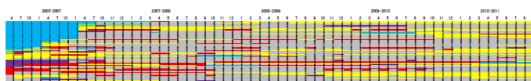
[早期離学非正規 正規優勢類型]



[長期在学類型]

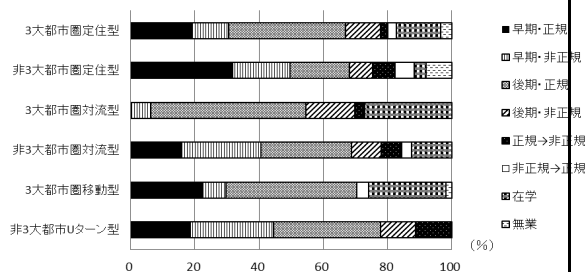


[無業類型]



地域移動

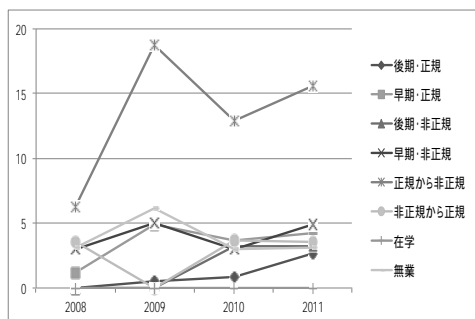
中学校卒業から20代半ばまでの地域移動においては、その間に移動経験がない者がおよそ4分の3であるものの、移行類型間に明らかな違いが見られ、移動経験者の異動後を含む20代半ばの居住地では高学歴者ほど大都市部に集中する傾向が強いなど、地域間の差異が思いのほか大きいことが浮かび上がった。



社会保障等の利用

雇用保険や公的就業支援等については、一定期間正規雇用を経験した者の中でのみ一定の利用経験が見られるものの、不安定状態を続ける者たちの中での利用度は低く、制度機能に問題点があることが浮かび上がった。

[雇用保険利用率]



その他

以上以外にも、就労をめぐる状況、家族関係、出身階層との関係、学歴および教育経験、社会意識や自己意識等、幅広い領域について重要な結果が浮かび上がっている。また本調査対象者は、調査期間中にリーマンショック・東日本大震災など国民生活全体に大きな影響を与えた事象を経験している。これらの影響についても検証をしている。

なお詳細については本調査ホームページ

<http://www.comp.tmu.ac.jp/yicsj2007/report.html> に報告書を掲載しているので参照されたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)
(主なものは以下の4件である。)

乾 彰夫, 2010, 『後期近代』という時代の若者たち アイデンティティと『生きづらさ』教育、

AKIO INUI, 2010, 「Identity and the Transition from School to Work in Late Modern Japan: strong agency or supportive communality?」 Research in Comparative and International Education, Volume7 Number4

佐野正彦, 2013, 「世界の調査/日本の調査 Youth Cohort Study(YCS) 長期化、不安定化、個人化する若者の仕事への移行プロセスの補足」社会と調査、11号

児島功和, 2014, 『『ノンエリート大学生』の教育と支援』教育、819巻

[学会発表](計12件)
(主なものは以下の3件である。)

報告場所: 日本教育学会(第69回大会)2010年8月21日

報告者: 安宅仁人、佐野正彦、長谷川裕、樋口明彦

タイトル: 働き 学び 生きる 22歳の若者たち 「若者の教育とキャリア形成に関する調査」第3年度結果から

報告場所: 日本教育学会(第71回大会)2012年8月25日

報告者: 乾 彰夫

タイトル: 5年間の移行調査と学校から社会への移行の諸類型 若者の教育とキャリア形成に関する調査から(その1)

報告場所: 若者パネル調査の国際比較 学校から仕事への移行はどれだけ不安定化したか? 2013年10月12日

報告者: 本田由紀

タイトル: 格差と不安定さの中を生き抜く若者たち 「若者の教育とキャリア形成に関する調査(YOUTH COHORT STUDY OF JAPAN)の概要」

[図書](計11件)
(主なものは以下の6件である。)

乾 彰夫, 2010, 『学校から仕事へ の変容と若者たち 個人化・アイデンティティ・コミュニティ』青木書店、286頁

中村高康, 2010, 『進路選択の過程と構造 高校入学から卒業までの量的・質的アプローチ』ミネルヴァ書房、308頁

樋口明彦他, 2011, 『若者問題と教育・雇用・社会保障 東アジアと周縁から考える』法政大学出版局、308頁

乾彰夫,2012,『若者が働きはじめるとき 仕事、仲間、そして社会』日本図書センター、308頁

平塚眞樹・新谷周平共著,2012,『若者の居場所と参加 コースワークが築く新たな社会』東洋館出版社、286頁

乾彰夫編著,2013,『高卒5年、どう生き、これからどう生きるのか』大月書店、365頁

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.comp.tmu.ac.jp/yicsj2007/report.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

乾彰夫 (INUI, Akio)

首都大学東京・人文科学研究科・教授
研究者番号: 90168419

(2)研究分担者

佐野正彦 (SANO, Masahiko)

大阪電気通信大学・工学部・教授
研究者番号: 00202101

平塚眞樹 (HIRATSUKA, Maki)

法政大学・社会学部・教授
研究者番号: 10224289

安宅仁人 (ATAKU, Kimihito)

酪農学園大学・農学生命科学部・講師
研究者番号: 20513675

中村高康 (NAKAMURA, Takayasu)

東京大学・教育学研究科(研究院)・教授
研究者番号: 30291321

横井敏郎 (YOKOI, Toshiro)

北海道大学・教育学研究科(研究院)・教授
研究者番号: 40250401

星野聖子 (Hoshino, Shoko)

常葉大学短期大学部・保育科・准教授
研究者番号: 40413249

片山悠樹 (KATAYAMA, Yuki)

愛知教育大学・教育学部・講師
研究者番号: 40509882

杉田真衣 (SUGITA, Mai)

金沢大学・学校教育系・准教授
研究者番号: 70324019

藤田武志 (Fujita, Takeshi)

日本女子大学・人間社会学部・准教授
研究者番号: 70324019

南出吉祥 (MINAMIDE, Yoshinari)

岐阜大学・地域科学部・助教
研究者番号: 70593292

上間陽子 (UEMA, Yoko)

琉球大学・教育学部・准教授
研究者番号: 90381194

木戸口正宏 (KIDOGUCHI, Masahiro)

北海道教育大学・教育学部・講師
研究者番号: 90405093

芳澤拓也 (YOSHIZAWA, Takuya)

沖縄県立芸術大学・美術工芸学部・准教授
研究者番号: 10389950

本田由紀 (HONDA, Yuki)

東京大学・教育学研究科(研究院)・教授
研究者番号: 30334262

児島功和 (KOJIMA, Yoshikazu)

岐阜大学・キャリアセンター・特任准教授
研究者番号: 80574409

(3)連携研究者

西村貴之 (NISHIMURA, Takayuki)

首都大学東京・人文科学研究科・助教
研究者番号: 60533263

樋口明彦 (HIGUCHI, Akihiko)

法政大学・社会学部・准教授
研究者番号: 70440097